

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *

令和8年第41週 (10月5日～10月11日)



RSウイルス感染症の報告が増えています

今週の報告数は14名で、先週の2倍となりました。報告の約8割は、1～3歳の子どもです。

RSウイルス感染症は、年齢にかかわらず何度も感染します。始めて感染した時は重症化しやすく、特に生後6か月以内の赤ちゃんは、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。主な症状は、発熱、鼻汁、咳などです。感染した人の咳やくしゃみのしぶきを吸い込むほか、ウイルスが付いた手や物に触れることで感染します。予防には、こまめな手洗いが大切です。手すりやおもちゃなど、よく触れる物はアルコールで消毒しましょう。鼻汁や咳などの症状がある方は、周囲への感染を防ぐため、マスクを着用しましょう。

インフルエンザについて

今週、竹田市調査医療機関から報告された患者数は18人で、先週より減少しましたが、幅広い年代からの報告が続いています。報告されたウイルスは、すべてインフルエンザA型でした。

大分県全体では定点あたり報告数が10.57人と、先週の7.63人から増加し、流行発生注意報の開始基準値を上回りました。

全国でも第40週の定点あたり報告数が11.35人となり、同じ基準値を上回っています。

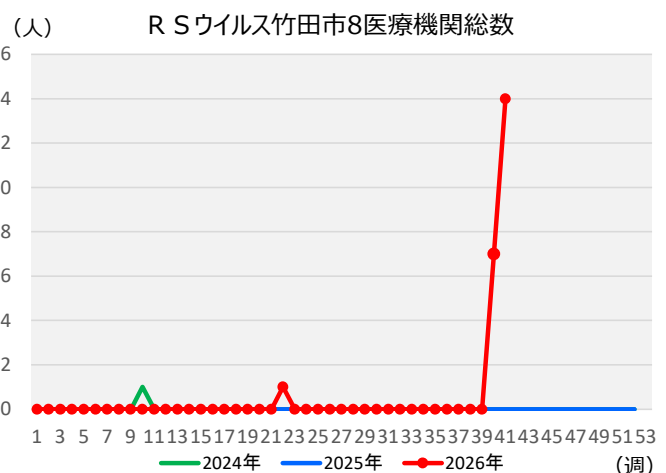
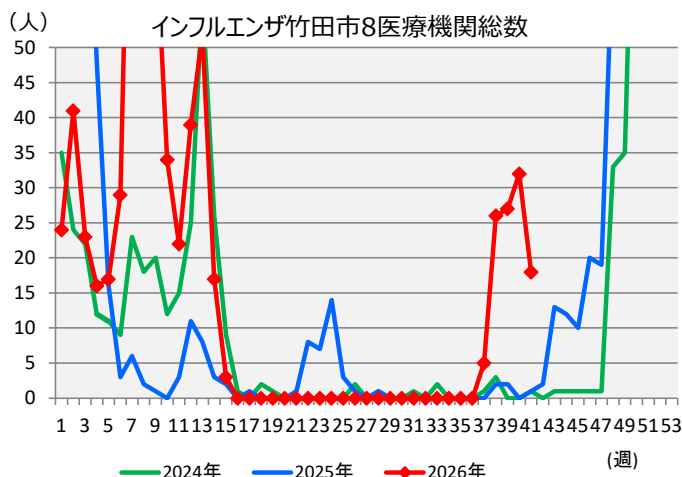
国内で検出されたインフルエンザウイルスをみると、直近5週間(第35週～第39週)では、AH1pdm09が98%、AH3亜型が2%でした。インフルエンザウイルスには複数の型があるため、一度感染した人も、別の型に再び感染することがあります。ワクチン接種は、感染や重症化のリスクを減らすために有効です。ワクチン接種を検討するとともに、手洗いや換気などの基本的な感染対策を心がけ、インフルエンザを予防しましょう。



(第41週)

(調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳												1							
1～3歳	1				11							1							
4～6歳	4				3														
7～9歳	1																		
10～14歳	5																		
15～19歳	2																		
20歳以上	5			2															
今週	18			2	14							2							
	18																		
70歳以上(再掲)				1															
先週	32			4	7														



日本全国、みんなで予防 インフルエンザ!

インフルエンザの予防には
みんなの「かからない」、
「うつさない」という気持ちがとても大切です。
手洗いでインフルエンザを予防して、
かかったら、マスク等せきエチケットも
忘れないでください。



インフルエンザ
予防キャラクター
マメソウくん



インフルエンザ
予防キャラクター
アズキちゃん

●インフルエンザに関する情報 インフルエンザ 検索 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/infuenza/index.html>

感染症対策

RSウイルス感染症

に注意しましょう

こんな症状がみられます



鼻水

せき

発熱

かぜのような症状が数日続き
多くは軽症で回復しますが、重症化した場合は
細気管支炎、肺炎などを起こします

生後6ヵ月以内の新生児・乳児への感染や、低出生体重児、心臓・肺・神経・筋肉などに基礎疾患がある場合や免疫不全がある場合などには重症化の可能性が高まります。

こんな時は

機嫌がよく、つらそうでなければ、
あわてずに様子を見て、かかりつけ医に
ご相談ください。呼吸が苦しそう、食事
や水分摂取ができない時は医療機関
への受診をご検討ください。

受診を送った場合や後戻り・休日の場合は、
「こどもの救急」などのWebサイトを参照
したり、24時間（子ども医療相談）に
ご相談ください。

こどもの救急



流行時期

初夏ごろから
継続的に増加となり
夏にピークになると
みられています

感染経路

飛まつ

接触

2歳までに ほぼ全員が
少なくとも一度は感染します

予防

水と石けんでの
手洗い



手やおもちゃなどの
アルコール消毒



症状がある時は
可能な範囲で
マスク着用



子どもを感染症から守るために、家族や周囲の
おとももしっかりと予防しましょう

2026年度から、妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が、
予防接種法に基づく定期接種の対象になりました。RSウイルスワク
チンを妊婦中に接種することで、乳幼児の肺炎・細気管支炎の主要
な原因である、RSウイルスの感染を防ぐことができます。

詳細については、医師にご相談ください。また、高齢者が感染すると
重症化することがありますので注意してください。

